

JCNA NEWS Vol.23

JCNA通信 第23号

2017年度のテーマ

神が成し遂げられたことへの驚き「力ある方が私に偉大なことをなさいましたから」

第58回 JCNA全国大会 in 御殿場



JCNA発祥の地、御殿場。井深八重生誕120年、JCNA発足60年のこの日、うっすらと雪化粧した富士山に迎えられ、全国から90名の会員がここに集いました。日々の生活の中で、改めて小さな人々をみつめ、己をみつめ、井深さんの生き方を通して伝えられたことを分かち合いました。細かい講演内容につきましては、春頃皆さまのお手元に冊子をお届けしたいと思っております。楽しみにお待ちしております。

大会事務局 横浜支部 平田初枝

井深八重初代会長の心を「会歌」に汲んで

JCNA会長 エンマヌエラ 山口郁乃

第7代会長をお受けした広島支部の山口郁乃です。

横浜支部が担当された第58回御殿場大会は無事に終了しました。参加された多くの方々がみな、きれいな会場で快いおもてなしを味わい、富士の美しさに感動したことと思います。

そして、大会のテーマ「井深八重初代会長が遺したもの、遺したかったもの」について、その1つがJCNAであったことはまちがいありません。新会長として私は、井深八重初代会長の心を、彼女が作詞した「会歌」に汲みます。井深さんとは会ったとも言えない遠目の出会いでしかありませんが、彼女が遺したこの歌に彼女のJCNAにかける思いが明確に示されていると思うのです。「神のみ旨のおん召しに」という歌詞は特に大切なところです。他の看護者の団体と私たちは、いただく恵みは平等ながら、「それが神から来る」と自覚している者であるかどうかの違いがあります。神山復生病院の井深八重さんを知れば、その大いなる生き方の秘密は、「主」が「病む人苦しむ人に仕える」よう自分を召されていることを知って従ったところにあるとわかります。

私たちは互いに祈りましょう。井深さんのように「仕え、寄り添う力」をいただけますように。「病む人苦しむ人の存在」が見えますように。その思いを大切にしつつ、広島支部会員である私の「核兵器や原発に頼らない平和」への思いを加えて、会の運営に当たりたいと思います。ご支援お願いいたします。

役員より

この度、副会長に任命されました、東京支部の長谷川綾子です。力不足とは思いますが、山口郁乃会長を支えながら、JCNA会員の、一人ひとりの祈りと行動が、病める人々の力になれるよう働いてまいります。

JCNA副会長 マリア・パウラ 長谷川綾子

皆さま、心を寄せて、一步ずつ前進して生きましょう。宜しくお願い致します。私ごときに務まるのか不安な昨年でしたが、お陰様で何とか1年間全うすることができました。残りの1年間、皆様のお役に立てるように、建設的に仕事をしていきたいと思っております。ご意見や疑問がございましたら、ご遠慮なくお寄せください。

本部会計 ベルナデッタ 石原貴子

メモトモリ（死を思う）

広島支部顧問 広島教区司祭 山口道晴

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

今年は1月2日の朝から96歳の方が亡くなられて、3日通夜4日葬儀という慌ただしい日を送っておりました。さらに4日の朝葬儀の直前に隣の喫茶店のご主人が朝方亡くなられたという連絡を受け、6日の通夜、7日の葬儀に参列したことなどを振り返るとき、一休和尚の狂歌「門松や冥土の旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし」という言葉が身に染みる三が日、松の内になりました。

私が、広島司教アレキシオ白浜司教様より「カトリック看護協会広島支部の顧問司祭になっていただけませんか？」とお願ひされてから早、9か月が過ぎようとしています。私の前任者であるイエズス会の林神父様の後を継ぐことなど考えもつかないことでした。何をすればよいのか、まったくわからないまま引き受けてしまい、本当に広島支部の方々には迷惑なお話ではなかったかと振り返っております。

この度は、全国大会が御殿場で開かれた折に、名前だけは知っていた井深八重さんと改めて出会うことができたことは大きな喜びでした。そしてそのお墓を訪ねることができたことは本当に幸いでした。毎朝眺めることができた富士山の雄姿と神山復生病院を身近に感じる訪問ができたことに対して心から感謝いたしております。

これから何ができるのかはわかりませんが、できることを精一杯させていただく一年になればよいと考えています。会員を増やししっかりした広島支部にしてゆかなければと改めて思っています。

これからのカトリック看護協会が、新しい若い人たちの参加が増えて、元気で活発な活動の原点となりますようにいつも祈らねばなりません。私たちの活動が神様のみ旨にかなう素晴らしい活動になることを願っています。この活動を通して皆様の上に神様の平和と希望と喜びが与えられるように祈っています。

これからもどうぞよろしくお願ひいたします。



♪ 支部短信 ♪

鹿児島 支部長 Sr.澤ヤエ子

昨年の8月支部総会の時、長年支部長の重責を勤めて下さった、松村精子先輩の重荷を下ろしていただきました。支部としての活動は、鹿児島市内の小教区を巡回して、信者さんの健康相談と血圧測定、信者さんたちとの交流を通してカト看のPRに行っています。会員が少ないので今後の課題です。出来るだけ会員の霊的向上と親睦を図って行きたいと考えています。

京都 支部長 山本信子

明けましておめでとうございます。よい一年となりますように、心からお祈り申し上げます。年に4回、河原町教会で定例会を開催しています。会員は、それぞれの与えられた場で、カトリックナースの使命を胸に抱いて活躍しています。定例会でそのような話にお互いが励まされています。顔を合わせて親睦を深めたいと考えています。

名古屋 支部長 鈴木光恵

12月は恒例のクリスマス会を開催いたしました。今年度入会の会員も参加され賑やかな会になりました。(司祭2名+会員12名) 3月は松浦司教様を囲んで、会員+聖霊病院の職員の集まりを予定。全国大会に向けてJ CNAの活動の理解・協力をいただけるように準備しています。

福岡 支部長 牧山幸二

11/3「神学院祭」と11/23「福岡教区の日」に救護活動を行いました。今後は3/21に司祭叙階式が予定されております。例会は基本奇数月の第4日曜日に熊本で開催しております。顧問司祭の講話をテーマに、会員の体験や意見を分かち合っています。

新潟 支部長 中村文子

まだ寒い時期ですが、これから少しずつ復活祭の準備をし、温かい春を迎えます。私たちの傍にイエス様がおられるので、手足となって活動いたしましょう。

広島 支部長 山口郁乃

広島支部の星は、インドネシアから来たテレシア・マリア・トジ・ピオさんです。日本に来て人工透析専門に体験し今春から広島大学の大学院に進みます。流暢な日本語、魅力的な笑顔、職場でも患者さんの元気回復に奉仕しています。

長崎 支部長 Sr.石岡ヒロ子

「平和と戦争・文化・考え方の相違」米国の文化を体験する機会があった。多くの見学の中で、1945年「硫黄島上陸の記念像」旗を立てた兵士像を見た。説明の中に解放という文字があった。戦争をし、解放、平和を築くという考えの文化に触れた。平和を願う中で、私にとって貴重な体験です。

東京 支部長 西村晶子

東京支部は、支部独自で研修会開催を計画するには至っておりません。毎月JCMA東京支部のの研修会例会に参加させていただいております。今年度も具体的活動の中で会員を増やしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

大阪 支部長 Sr.川口百合子

今年は『あるものさがし』にチャレンジしたいと考えています。自分の日常の中に、人との出会いの中に、、、。昨年、井深八重氏が生涯を捧げたゆかりの地に立って、雄大な富士山を目の当たりにして色々思い巡らしている中、神様のサプライズだと気づきうれしくなりました。

仙台 支部長 古関睦

3月11日であの震災から丸7年、8年目を迎えます。

東松島の響仮設住宅の大半の皆様は去年8月にやっと、あの狭い仮設住宅からかさ上げした北部丘陵団地の『野蒜ヶ丘』に移住され、新たなスタートをきられました。

これからは生活が安定、衣食住が確保されるとかえって失った親族、友人、家、物への思いが込み上げてくることもあります

今後ともその方達のことを忘れず、思い、寄り添い、祈り、新自治会、社会福祉協議会、町づくり推進会の皆様と、復興の思いもあらたに歩んで行きたいと思えます。

去年12月には自治会とカリタス石巻主催でクリスマス会を行い、60人以上の住民

の方々と今まで関わってきたボランティアとの交流を深めました。

札幌 支部長 佐藤昇子

皆様、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。昨年の札幌支部黙想会は、ケン・スレイマン神父様のご指導の下、10月7日に天使大学で行われました。そ



して12月16日のクリスマス会では、ケン神父様と12名のメンバーが大学に集まりました。聖家族のエジプトでの足取りを辿るという興味深い内容の勉強会とミサが行われ、特別参加の天使大学学生佐藤雅さんから、9月に行われたカトリック医療関連学生セミナーの感動的な報告を頂きました。今年もフレッシュな風が吹きそうな予感がする札幌支部です。

横浜 支部長 井坂玲子

御殿場全国大会では、沢山の応援・ご協力・お祈り有難うございました。'18年は大会誌の発行、カ障連全国大会への協力、会員相互の活動の分かち合いを通じ“命へのまなざし”の具現化をより深めていきたいと思っています。

日本カトリック医療施設協会全国大会に参加して

高松支部 河上真里

昨年(2017年)の11月17日から2日間にわたって、カトリック医療施設協会の全国大会が、坂出で行われました。「いのちをみつめて」をメインテーマに掲げ、全国から250人以上の方々をこの小さな場所にお迎えして、サブテーマ「医療における出会いと絆」の通り、参加された皆様は熱意と活気にあふれ、又、新たな出会いと絆が深まった実り豊かな2日間になりました。

基調講演で、追手門学院大学心理学部教授の溝部宏二先生が、医師の立場から、又、心理学者として、『患者と本当に「出会う」為には、自分自身も弱い人間だということを知ること(認める)ことが必要だ』という趣旨のお話があり、カトリック医療者として自分自身を見つめ直す良い機会になりました。

・・・・・・・・・・ 連携団体ニュース ・・・・・・・・・・

・日本カトリック医療団体協議会運営委員会 in 坂出

2017年11月16日 議事録は各支部長宛て送りました。

・日本医療カトリック医療施設協会全国大会 in 坂出

2017年11月17日～18日

ホテルを主会場に、講演や事例発表(口演、ポスターセッション)が行われました。また、両日とも坂出教会でのミサ、18日は新築された聖マルチン病院の見学をさせていただきました(病院職員の高松支部会員に出会えました)。謙遜な聖人、聖マルチン・デ・ポレスの生涯も紹介されました。

・CICIAMS (Comite international Catholiques Infirmieres et Assistantes Medico Sociales)

会長は、Geraldine McSweeney さんです。

第20回世界大会はマレーシア看護協会が準備して、マレーシアのクチンで開催されます。会期は2018年9月4日～8日。大会テーマは

Education for Sustainable Health : Engaging Development , Respecting Life

であると案内されています。

編集後記

11月のつくばマラソンで人生初のフルマラソンにチャレンジしました。5時間11分かけてなんとか完走することができましたが、走り終えた後の体はまさに満身創痍、自分の未熟さを痛感しました。しかし沿道の方々のあたたかい応援もあり(特に小さな子どもたちの声援は格別です)、完走できたという充足感、今でも個人的な自信と誇りとして残っています。長い道を走り続ける中で、ひとりでは何もできないということを知りました。しかし、道中に出会う人々の支えがあるのなら、無力なはずのひとりは何かを成し遂げる力を得ることができる、ということも知りました。道はきっとまだまだ半ば。たくさんの出会いを大切に、これからも走り続けて参ります!

書記・広報 ペトロ 山口巖

JCNA通信 第23号 発行 2018年2月11日

本部顧問司祭 飯野雅彦

会長 山口郁乃

副会長 長谷川綾子

書記・広報 山口巖

会計 石原貴子

ホームページ <http://www.jcna/info>

本部事務局 〒741-0081 山口県岩国市横山1-4-3 TEL 0827-43-3017

メール emmanuela-i@xb4.so-net.ne.jp